平成26年度第３回遠野市総合計画審議会
ー 議事概要 ー

（開催要領）
1　日時　平成27年1月26日（月）午後1時30分～午後３時10分
2　場所　遠野市役所とぴあ庁舎　大会議室
3　出席者
(1) 委員

会長	臼井　悦男	遠野市社会福祉協議会会長
副会長	荒田　良治	一般社団法人遠野市観光協会会長
委員	井手　　純	遠野市消防団団長
委員	千葉　　和	ＮＰＯ法人遠野エコネット代表
委員	千葉　純子	一般社団法人遠野市医師会
委員	河野　好宣	遠野市体育協会会長
委員	菊池　一晃	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	松田　希実	遠野市わらすっこ支援委員会副委員長
委員	菊池　塔寿	遠野市校長会会長
委員	佐々木國允	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	菅沼　隆子	一般財団法人遠野市教育文化振興財団副理事長
委員	内舘　充幸	遠野市区長連絡協議会会長
委員	海老　糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	佐々木栄洋	公募
委員	鳥屋部恵児	公募
委員	高宏　美鈴	公募
代理	沼里　ミエ	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会副会長
代理	川野　政光	花巻農業協同組合遠野統括部長
代理	菊池　修市	遠野地方森林組合参事
代理	及川　貴也	一般社団法人遠野青年会議所副理事長
代理	工藤　和信	遠野市ＰＴＡ連合会副会長
代理	八重樫健一	岩手県県南広域振興局経営企画部企画推進課主査

(2) 遠野市

本田　敏秋	市長
菊池　孝二	副市長
藤澤　俊明	教育長
菊池　文正	経営企画部長
飛内　雅之	経営企画部まちづくり再生担当部長
菊池　保夫	総務部長
荻野　　優	健康福祉部長
菊池　永菜	健康福祉部特命部長
鈴木　惣喜	産業振興部長
大里　政純	農林畜産部長
小向　孝子	遠野文化研究センター部長
古川　　憲	市民センター所長
多田　博子	宮守総合支所長
谷地　孝敏	消防長
菊池　幸市	子育て総合支援センター所長
佐藤　浩一	企画・秘書広報担当課長
鈴木　英呂	財政担当課長

千田　孝喜　　まちづくり再生担当課長
澤村　一行　　管理情報担当課長
仁田　清巳　　建設課長
佐々木一富　　子育て総合支援課長
米内　臣一　　教務課長

4　欠席者
委員　　佐々木弘志　　遠野商工会長
委員　　菊池　広樹　　公募
委員　　菊池　浩彦　　公募

（議事次第）
1　開会
2　諮問
3　市長あいさつ
4　会長あいさつ
5　出席者報告及び日程説明
6　報告
(1) 新エネルギービジョンの策定と条例の制定について
(2) 市役所本庁舎整備事業について
7　審議
(1) 子育て環境のあり方について
8　その他
9　閉会

（配付資料）
1　次第、名簿
2　諮問書（写）
3　新エネルギービジョンの策定と条例の制定について（資料NO１）
4　市役所本庁舎整備事業について（資料NO2）
5　遠野駅舎の未来を考える会の開催について
6　公立保育所・幼稚園の運営について（資料NO3-1）
7　今後の県立高等学校の在り方について（資料NO3-2）

（議事概要）
１　開会
○菊池文正　経営企画部長
　定刻となりました。本日は、お忙しいところを御出席頂きまして、ありがとうございます。
　ただ今から、平成26年度第３回遠野市総合計画審議会を開会いたします。
　ここで諮問に入ります。遠野市長が臼井会長に、子育て環境のあり方について諮問を行います。市長は、会長の席にご移動をお願いします。

２　諮問
○本田敏秋　遠野市長
　＊会長席に移動し、諮問書を読み上げた後、諮問書を手渡す。
　それぞれ資料を添付しておりますので、ご審議いただきますよう諮問いたします。お願いいたします。

３　市長あいさつ
○菊池文正　経営企画部長
　ここで、遠野市長がご挨拶を申し上げます。

○本田敏秋　遠野市長
　皆さん、ご苦労様です。
　１月６日の市民新年交賀会には､400人程が集うことができました｡11日の消防出初式では、消防団の団結、安心安全を市民の皆さまに、堂々とした分列行進をお示しし、出初式が執り行われました。午後には、260名を超える新成人の方々が、新たなスタートを切ることができました。
　皆さまには、それぞれの分野で、市勢振興のために大変なる活躍をいただいております。
　19回目となるアメリカのチャタヌーガとの交流、まさに夢と希望と、わくわくした気持ちを持ちながら中学生諸君が旅立ちました。そして、色々な経験をしながら無事帰って来たという報告もいただきました。
　ことほどさように、それぞれの部門、あるいは、それぞれの立場で遠野市の地域振興、活性化のために大変なご活躍をいただいている委員の皆さまに、心より敬意を表し感謝を申し上げます。
　今日は、先ほど臼井会長に諮問いたしました、子育て環境設備についてよろしくお願いします。遠野は「わらすっこ条例」を制定し、また「わらすっこプラン」を策定し、さらには、それを形にするため「わらすっこ基金」を立ち上げて、それなりの努力はしてきているつもりです。しかし、この問題は「つもり」ではすまされない、非常に緊張感、緊迫度の高い課題になっております。
　地方創生、そして、消滅市町村という言葉まで飛び交う中において、地方をしっかり行ってくれという中における取り組みが、本格的にスタートしました。その中には、知恵を出し、具体的な取り組み行っているところには応援をすると。しかし、何もしないところには応援しないと。極論すれば、そのような形での問いかけになっております。
　遠野市では､本当に様々な取り組みを行ってきました｡また､一定の成果を得ることができ、また、全国から評価されているところでもありますが、一方においては、まだ解決できていない問題もあります。
　今年の10月には合併して10年になります。あっという間であります。
　先般、宮守町地区のある集落の新年会に出席いたしました。前回、来たのはいつだったかなという話をしたところ、10年振りということでした。10年も来ていなかったのか、10年経つのも早いものであると改めて思ったしだいであります。その集落では、今度、小学校に21人入るが、この集落からは８人の子供が入学するとのことでした。その新年会では、わらすっこ達が歓声をあげて、それぞれ飛び回っていました。子どもたちにとって、どのような形で、よ

り良い環境に持っていくのか、まさに子育て環境であります。これをおろそかにしては、子育てだ、あるいは学校再編をした、さらには、様々な環境を整えたと言っても、どうしても越えなければならない課題が、その中に見えてきます。当事者同士が話し合っても、なかなか、歩み寄りと決着という部分においては、かなり難しい部分もあります。

総合計画審議会の中の一つの役割として、調査を行い、市長の諮問に対する答申という役目も担っていただいておりますので、総合計画審議会の委員の皆さまに客観的な立場で、遠野の未来をきちんと見据えた中で、一つの方向性を示していただくと。すべてを行政が決めるわけではありません。遠野の仕組みは、官民一体、市民協働という取り組みの中で進めております。

そうであれば、この子育て環境について、先ほど、会長に諮問したとおり、この幼稚園・保育園の一元化の問題と高校の再編問題。震災で中断していた県立高校の再編に、県で本格的に着手しましたので、どうしても定員割れをしている小規模校は、少子化に伴って避けて通れない課題です。そういった中におきまして、それを座して待つわけにいかない。県の動きに呼応する中において、遠野市としての高校のあり方を、皆さんのお知恵とご提案を踏まえながら見出し、県の再編計画にきちんとした形で受け答えをしていかなければならないと思っております。

昨年、行われた県教育委員会主催の意見交換会に首長もということでしたので、出席してきました。会議の終わり頃、このような話がありました。「これだけの少子化の中で、定員割れが増えている状況では、再編は避けられないだろう。しかし、地域の実態は、県立高校というよりも村立高校、あるいは町立高校、市立高校といった中で、地域の活性化と地域の活力と、その地域の元気を一つの象徴として、高校もあるのだと。その高校の火を消してはならない。規模だけではない。村立高校だ、町立高校だ、市立高校だという中において、この問題に立ち向かうべきだ」という意見が出ました。私は思わず拍手をいたしました。それは県の問題で、これは市町村の問題ではない。やはり、一体となってこの問題にも対応していかなければならない。数だけではない、応募者だけでの状況ではないという中における取り組みも、していかなければならない。地域資源がたくさんあるではないか。では、その資源をどう活かして、特色のある実業高校なり、さらには進学を目指すのであれば、それなりの底力を持った学力といったようなものを備えた形の高校もあっても良い。もちろん、実務といったものにきちんと足腰を据えた、そのような高校もあっても良い。それぞれの地域の特性を活かした高校のあり方が、数だけではないという中における、一つの位置付けが、これから必要ではないかと、その意見交換会の場でも痛切に感じたところであります。

そういった中において、人口減少は避けて通れませんが、これにきちんと歯止めをかけるためにも、幼児教育から高校教育まで含めて、子育て環境のあり方を見出してまいりたいと思っています。

お陰様で、大変な苦労と８年越しの時間を費やしまして、中学校は８校から３校体制になりました。生徒諸君は、見事にその答えをだしております。スポーツ、芸術、文化など、様々な分野で、きちんと答えを出していますので、私どもは、その様なことを一つの良い意味での自信としながら、これからの子育て環境のより充実した将来性を見誤らない方向性を皆さんと共に確認しながら、それを総合計画の中に位置付け、それを形にしたいと思います。

きちんとした仕組みにするためにも、時間があるようでないわけですので、ぜひ、議論を重ねていただき、方向性についての答申をいただきますよう、委員の皆さまに重ねてお願いを申し上げまして、挨拶にかえさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

４　会長あいさつ

〇菊池文正　経営企画部長

続きまして、臼井会長よりご挨拶をお願いいたします。

〇臼井悦男　会長

皆さま、ご苦労様です。前回の審議会は 7 月 28 日でしたので、ほぼ半年振りの開会ということになりました。この間、様々な出来事がありましたが、遠野の町づくりが勢い良く進む様々

なニュースに触れるたびに、元気をいただいているような思いがしております。
　先ほど、市長から子育て環境のあり方についての諮問をいただきました。意見を求めるということでありますので、皆さまと議論を重ねながら、意見を答申という形でまとめる役割を担ってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

５　出席者報告及び日程説明
○菊池文正　経営企画部長
　５番の出席者報告及び日程説明についてです。
　本日、委員の皆さま方の出席状況は、25 名中、代理出席も含めまして 22 名の皆さまにご出席いただきました。ありがとうございます。
　次に、市の出席者につきましては、会議資料の２ページの通りでございますので、省略させていただきます。
　本日の資料の確認をさせていただきます。事前に配布しております資料を、本日お持ちいただいているかと思います。
　加えまして、当日配布資料といたしまして、
　１　市役所本庁舎整備事業について（資料 N02）
　２　諮問書（写）
　３　午前中に記者懇談会で発表した「遠野駅舎の未来を考える会の開催について」
　４　追加資料で「今後の県立高等学校の在り方について」
　不足の資料がございましたら、事務局の方に申しいただければ用意いたします。よろしくお願いいたします。
　これから、協議に入りますが、報告事項につきましては、それぞれ 15 分程度ずつ説明を申し上げます。
　その後、本日の審議事項に入らせていただきますが、(1)として子育て環境のあり方として現在の市の検討状況につきまして、説明を申し上げます。それぞれ 20 分程度ということで、できる限りポイントを絞りまして、まず市の考え方について、そして、何を議論していただくかということを主旨に説明申し上げます。
　以上で、本日の日程については、概ね２時 40 分頃をめどに終了させていただきたいと思っています。それでは、６以降の報告事項につきましては、進行を臼井会長にお願い申し上げたいと思います。
　よろしくお願いいたします。

６　報告
○臼井悦男　会長
　それでは次第に従って、進めてまいります。次第の６の項目に入ります。事務局、説明をお願いします。

○佐藤　浩一　企画秘書広報担当課長
　＊下記資料を説明（約 10 分）
　　・新エネルギービジョンの策定と条例の制定について（資料 N01）

　新たに設置する審議会にも、皆さまの御協力をお願いします。
　新エネルギービジョンは、現在、印刷製本中ですので、後日、委員の皆さまには、製本したビジョンをお渡しします。

○臼井悦男　会長
　ありがとうございました。報告事項ではありますが、質問やご意見をいただければと思いますが、よろしいですか。
　製本した計画が届くとのことですので、皆さんよろしくお願いします。

それでは、(2)の市役所本庁舎整備事業について、説明をお願いします。

○飛内雅之　まちづくり再生担当部長

＊下記資料に基づき説明（約10分）

・市役所本庁舎整備事業について（資料NO2）

・遠野駅舎の未来を考える会の開催について

本庁舎エリアは、約3,900㎡。当初の整備方針では、約3,000㎡でしたので、より大きなエリアになっています。

このエリアには、歩道を考えておりますので、この部分を除けば（斜線部分）、約3,400㎡が本庁舎エリアです。

代替地のエリアには、この区画に残りたいという地権者の意向を最優先にしながら、ミニ区下記整理事業のような手法でエリアを確保しました。７人残る予定です。

遠野のまちづくりを考える市民ワークショップでは、本庁舎建設は、もとより、庁舎周辺の中心市街地の活性化の環境整備について、多くの市民の声を取り入れることを目的とし、高校生４人を含む、20代から60代までの、男性、年列別のバランスをとった20名で組織している。約30ものアイデアをいただいている。１月30日に第６回目を開催し、まとめたうえで、２月には市長に報告する予定です。

ＪＲの意向もありますが、遠野駅舎は、遠野のまちづくりに大きな役割を果たしてきました。ＪＲの状況もそのとおりですが、大事な駅舎ですので、市民と行政とが一体となり、どのような形が良いのか知恵をしぼってまいりますので、よろしくお願いします。

○臼井悦男　会長

庁舎整備、駅舎について、ご意見等ありますか。

記者懇談会でも発表したとのことですので、遠野テレビでも確認いただけます。

遠野にとって重要なことですので、注目しながら、ことあるごとに色々な場所で発言していただければと思います。

よろしいですか。では、報告につきましては、以上で終了いたします。

７　審議

○臼井悦男　会長

それでは、７の審議に入らせていただきます。先ほど、市長から諮問がありました。事務局、説明願います。

その後、進め方等について、確認させていただきますので、確認することなどを考えながらお聞き願います。

○佐藤　浩一　企画秘書広報担当課長

議論の進め方についてですが、よろしければ、議論を深めていただくために10人以内で構成する専門部会を組織していただければと思います。

委員には、総合計画審議会の委員の皆さまを考えております。人選につきましては、会長と協議させていただきたいと思います。なお、専門部会の会長には臼井会長、副会長には荒田副会長にお願いできればと考えております。専門部会を２回程開催し、その結果を４月の審議会に報告し、審議していただきたいと考えております。

○臼井悦男　会長

今後の進め方について説明がありました。今のことについて、ご質問ご意見はありませんか。

委員の中からとのお話がありました。総合的に判断していただきたいということで、諮問されたものです。今までも、色々な場面で深く関わっていただいている方もいれば、子育てから遠ざかっている方もいます。その時に、このメンバーの中から10人と言ったときに、肝心の議論ができれば良いのですが、この委員の中から10人ですか。

○佐藤　浩一　企画秘書広報担当課長
　そのように考えています。10 人以内ということで、委員長と相談しながら、協議しながら決めていければと考えております。

○臼井悦男　会長
　皆さんいかがですか。本来は、全体で議論しなければならないのですが、４月の報告に向けて、機動力を活かして進めたいということですが、よろしいですか。
　（はいとの声あり）
　委員にご指名された方は、積極的に関わっていただくようお願いします。
　それでは、そのように進めるということを確認させていただきます。では、説明をお願いします。

○佐藤　浩一　企画秘書広報担当課長
　各項目については、担当課長から、それぞれ説明いたしますのでよろしくお願いします。

○佐々木富一　子育て総合支援課長
　＊下記資料に基づき説明（約 11 分）。
　　・公立保育所・幼稚園の運営について（資料 N03-1）

　現在の公立の宮守３園につきましては、合併前から、宮守幼稚園については昭和 50 年 4 月から、鱒沢幼稚園については 57 年から、達曽部幼稚園については 58 年から。その後、新市において、私立の保育所・幼稚園と、それから公立の保育所・幼稚園、それぞれ運用してまいりましたが、その施設運営の一元化について、協議をしていきたいと思います。
　（資料に基づき説明）
　資料７ページのタイトルですが、「市内 13 市」は「県内 13 市」と訂正願います。
　（資料に基づき説明）
　国の制度のもとで新たな施設のサービス形態が、出されておりますが、国の新制度では保育教育のサービス提供として、保育所･幼稚園に加えて、認定こども園も出てきております。様々なニーズに対応したサービスを民営化しておりますが、市とすれば、市保育協会、将来的な子育ての環境を見据えた上で、そのサービス体系のビジョンを作っていかなければなりません。
　市としても、今後、子ども子育て事業支援計画、さらには、子育てするなら遠野構想を作成してまいりますが、その点も踏まえまして、その受け皿として重要な位置付けである遠野市保育協会の役割、そのマンパワーの活用や地域での子育て環境の充実におきまして、今後、非常に重要な役割を占めていると認識しています。
　審議会の皆さまにおきましては、保育所・幼稚園の施設サービスの提供の望ましい形、公立の施設運営の一元化の推進、これも重要なことでございます。さらには、将来の市内の子育て環境をどう目指して進んでいくのか、そのためにどのような方向性が望まれるのか、様々な視点から審議いただきながら、新たな遠野スタイルとしての子育て環境の方向性について議論いただきまして、平成 28 年度からの次期遠野市総合計画につなげて、反映させていきたいと考えております。よろしくお願いします。

○臼井悦男　会長
　ありがとうございました。質問やご意見は、まとめて受けたいと思いますので、次の事項についての説明をお願いします。

○米内臣一　教務課長
　＊下記資料に基づき説明（約８分）
　　・今後の県立高等学校の在り方について（資料 N03-2）

○臼井悦男　会長
　２つの内容を説明していただきました。今後は、専門部会で議論していくとことにはなりま

すが、説明のあった内容についての質問やご意見をお願いします。

○佐々木國允　委員
　現在の状況は、資料で分かりますが、一元化していくための問題点とは、どのようなことですか。

○佐々木富一　子育て総合支援課長
　公立幼稚園・保育所のあり方につきましては、合併当初からですが、もう 10 年経っておりますが、当時はその形を新市に移るということで行ってきました。
　国でも、子育て環境を育てていくことで、認定こども園という制度もでてきました。
　一つは、幼稚園で入所が少なくなっています。幼稚園・保育所一体的とは言っても、バランスが崩れてきています。例えば、鱒沢や達曽部は、一桁台の入所状況になっており、もしかすると鱒沢においては、今年の春には、幼稚園に転入する希望する家庭がないかもしれません。それ位、人数が変わってきています。
　さらには、保護者も自分の地域ではなく、就業場所の近くに預けたいという傾向もあります。
　それを今度の新制度において、その施設、それからサービスの量をきちんと位置付けなければならない。それらを踏まえた上で、今後のあり方、体制はどうしていけばよいのか、もしくは、サービスを提供する側、受ける側、それをもう一度、検証する必要があります。財政的なこともありますが、そのような新たな課題に対して、さらに協議・検討してまいりたいところです。

○佐々木國允　委員
　私は、一元化することに賛成です。
　少子化に向かっているこの時代で、大事なことと思っていることがあります。それは、共に生きるという考え、精神と言いますか、そのようなものが育ちにくくなっていると思います。
　まだ、問題点はあるのですが、今の家庭はマイホーム主義で、箱入りというか、そのような子供たちが多くなってきています。そのような中で、地域に優れた人材を育てていくとなれば、小さい時からの取り組みが、大事だと考えます。
　今、説明の中で、サービスという言葉もありましたが、育てる中において…、幼稚園に入る前に、ある程度の勝負はついているという見方もありますので、小さいときの育て方が、大事であると感じています。そうした中で、一元化した中で、同じような教育というか、子育てが行われるのが望ましい形ではないかと思います。
　そのような意味では、単なる新制度に基づく一元化ではなく、遠野の優れた人材を育てるために、現場において指導者の研修を深めていくとか、子育てをしていくことが、少子化に向けての大事なことではないかと考えます。

○菊池幸市　子育て総合支援センター所長
　佐々木委員の意見、とても重要に受け止めました。
　子供たちを、単に育てるだけで良いというわけではなく、また、新制度の形にはめるということではないということと受け止めました。私も同意見であります。
　現在、宮守地区の３園については、先ほど佐々木課長から説明した通り、子供の数が年々減少してきており大きな課題となっております。ある地区においては、幼稚園に希望する子供、あるいは家庭が、もしかするとゼロになるかもしれません。それほど小規模になっており、厳しい状況と受け止めております。
　やはり、小さな子どもたちの保育、あるいは幼児教育にあっても、ある一定の規模が必要だと思っております。やはり、一対一は、丁寧な保育教育は当然できますが、一定の集団の規模があると、より豊かな経験を子供たちに与えることができるという意味合いでの保育園だと受け止めております。
　その中で、宮守町公立の３園につきましては、宮守町の中で、人事が行われている関係で、人材の育成の部分でも、硬直化することを心配されてのご意見だと受け止めております。
　そのような現状を、良い方向に持っていくとすれば、現在市内で保育園を運営されている保

育協会に、運営をお願いすることによって、広く人事的な交流もできますし、より豊かな幼児教育・保育ができるものと感じております。

○臼井悦男　会長
　ありがとうございました。他にありませんか。
　それでは、２つ目に説明がありました、今後の県立高校のあり方について、それも議論を進めていくことになりますが、この時点で確認したいこと、聞いておきたいことありましたらお願いします。
　説明いただいた内容を、このメンバー全員ではなく専門部会のメンバーで議論を深めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。
　意見がないようですので、終わりにさせていただきます。

８　報告
○臼井悦男　会長
　それでは、８のその他に入ります。
　事務局から、何かありますか。

○佐藤　浩一　企画秘書広報担当課長
　先ほど、説明しましたが、専門部会は、２月、３月にかけて２回程度開催する予定ですので、よろしくお願いします。
　全体での審議会は、４月頃を予定しておりますので、詳細につきましては、改めてご案内しますので、よろしくお願いします。

○臼井悦男　会長
　ありがとうございます。
　それでは、議事は終了しましたので、議長の役目を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○菊池文正　経営企画部長
　臼井会長、大変ありがとうございました。ここで、遠野市長からご挨拶を申し上げます。

○本田敏秋　遠野市長
　ご苦労様でした。
　今日は、諮問の他に、新エネルギービジョンの制定について。環境保全と再生可能エネルギーとの調和という中において、メガソーラーを始めとする様々な再生可能エネルギーの動きもあり、慎重を期してまいりたいと条例を制定したことも報告しました。
　本庁舎の再建も、お陰様で大きな山場を越え、先週、平成 27 年度の当初予算編成作業を４日間、時間にして延べ 40 時間程かけました。
　市民センターの大規模改修と本庁舎の整備に、合わせて約 30 億円の事業費を要するということになり、どうしても 200 億円を超えることになりました。
　私も、皆さまから市長という職をいただき、当初予算編成も 14 回目となりますが、200 億円を超えるのは、始めての経験です。ぎりぎりの財政事情の中で、二つのプロジェクトも行っていかなければなりません。
　３月定例審議会で、厳しい論議が交わされるかと思っておりますが、
そういった中で平成 27 年度は、総合計画の仕上げの年であります。皆さまの協力いただきまして、達成率は一定の数字は確保できそうではありますが、これから次の 28 年度を初年度とする、前期５カ年、後期５カ年、10 カ年の中に、どのように次のプロジェクトに位置付けていくかということにおきましては、ただ今、諮問申し上げました、あるいは報告申し上げました内容等につきまして、それぞれ十分なる舵取りの中から財政運営をしていかなければならないと思っておりますので、皆さまの更なるご指導とご協力をお願いします。

今日は、２つの賞を皆さまにご披露したいと思います。これは、遠野の町づくりにとっては、極めて大事な賞であると私は捉えております。

（皆さんに、賞と副賞をご披露）

１つは、日本建築学会の文化賞を受賞いたしました。日本建築学会の授賞式に行ってまいりましたが、大変位が高いと申しますか、大変な賞を受賞したと授賞式に臨んで実感いたしました。これは、それぞれ学会として、学会員である東大の先生が、遠野の町づくり、とおの物語の館や博物館を遠野物語発刊100周年に併せてリニューアルした、そして、さかのぼれば、大工町の町並み景観、下一日市の区画整理事業、そして駅前再開発と。先輩が、こだわりながら遠野の町づくりに取り組んできた中におけるものとして、文化賞を受賞いたしました。

そして、もう一つは、１月 19 日の日に地域創造という総務省の総務大臣賞という地域創造大賞を受賞いたしました。その授賞式には、副市長と市民センター所長が出席しましたが、遠野物語ファンタジーが 40 年も続いているのは奇跡に近いという評価があったそうです。そして、公設のバレースタジオ、あるいは、少年少女合唱隊といったような、きらっと光るような、そして、他の地域ではないようなものを、きちんと継続しながら繰り返しながら、実証していると。派手さはないけれども実施しているということで、地域創造大賞ということであります。

これも、全国で、合併の中から多くの市民ホールが、あるいは体育館が、あるいは公民館が、姿を消していきました。博物館などは、かなり無くなりました。市町村の数分が、減った中において、そのような取り組みが評価され、２つの賞をいただきました。

これらは、昨日今日の取り組みではありません。多くの市民の皆さまが、こだわりながら、協力をしていただきながら、遠野の町づくりを行ってきたという一つの証であろうかと思っております。

そういった中にありまして、今日報告した駅舎問題もやはり、その延長線上で、とらえなければなりません。もちろん、お客様を運ぶＪＲ東日本株式会社とすれば、何にも増して優先しなければならないのは安全であります。これは当然であります。したがって、その駅舎が昭和25年に建設した中にあって、安心安全が保たれない、耐震性が問われている。耐震補強するのも、新しく作るのも同じだと。そうであれば、解体をし、今の規模の３分の１のコンパクトな駅を作る。これは、安心安全ということからすれば、当然それはかなうわけであります。

しかし、乗降客が400人にいたらない遠野市であっても、我々はこのようにこだわりの町づくりを行ってきました。そのこだわりの町づくりの中の一つが、駅舎という存在でもあったわけでもあります。乗降客にもお年よりの方が増えてきているのでエスカレーターをと。しかし、その基準は、１日の乗降客が3,000人だとなれば、400人という数字の中では、どうしても太刀打ちできないというのが現状であります。

しかし、１分、２分の中で電車が行きかう大都会では、どんどん収入が入りますので、それに伴う設備投資も、どんどん行われているわけであります。そういった中で、遠野駅舎をそのような中で検討され、解体するというような結論を簡単に出されてたまるかと言うのが、私の正直な気持ちであります。

しかし、安心安全といった場合、我々も市民の皆さまの協力がなければ、ＪＲ東日本という巨大企業と立ち向かうことは難しい、と言うよりも困難であります。

ＳＬ停車場プロジェクトで、どれ程、市民の皆さまが力を発揮したのか。皆さんが、それぞれ仕事をかかえている中で、お出迎えをし、お見送りをする、また、遠野に来ていただく、遠野を活性化しようという中で、あの駅舎の中で、色々な団体の方々が、神楽やしし踊り、あるいは座敷わらしが、ボランティアの方々が懸命に活動してくださいました。

そのことにより、12,000人ものお客さんを遠野に運んだという結果を、我々は得ることができました。それを、一日の平均乗降客の中で、すべて見直しされ結論を出されては、我々のこだわりという中での取り組み、コストを、ＪＲさんでは、どのように受け止めてくれるのだろうか。単なる乗降客ではないだろうと思います。国でも、こだわりの町として、地方頑張れ、地方はどんどん知恵を出して来いと言っているではないか、地域の資源を利用して地方の底力を発揮しろと言っているではないか。そうであれば、駅舎も、その一つであれば、これは残しましょうとか、このような形で一緒になって考えましょうとか、そうであれば一緒になって一つのプロジェクトを立ち上げましょうとかの話し合いは必ずできるし、また、そうしなければならないと思っております。

ただ手をこまねいていては、ＪＲの方針で押し切られてしまうという事が無いわけでもないということで、先週、駅舎問題を考える会を立ち上げました。
そして、２月の早々には、この駅舎問題を考える会の代表と副代表を、皆さんで決めていただ、それぞれ遠野市の、あるいは遠野市民が、あるいは関係者が、この駅舎問題にどのような思いを持っているかというようなことを、ＪＲの方に文章で提示をしたいと。そして、色々話し合いませんかと、歩み寄りませんかというよりも、話し合いませんかという形での申し入れに持って行きたいと考えております。
単に、テンションをあげて、保存だ保存だと言っても、大変な財政負担も出てくるわけでありますから、そのこともよく冷静に考えながら、対応していかなければならないと思っておりますので、この駅舎問題も併せて皆さまの知恵をいただければという中で、今日は情報を提供させていただきました。よろしくお願い申し上げます。
多くの課題がありますが、間違いなく、皆さまと一緒に、それぞれの課題に真正面から取り組めば、必ず良い知恵と良い提案と、そしてお互いにハッピー・ハッピーの一つのプロジェクトに持って行けるのではないかと思っています。
少し言い過ぎた、あるいは、思いを前のめりで言い過ぎたところもあろうかと思っておりますが、皆さんのさらなるご協力とご支援をお願い申し上げまして、閉会に当たりましての御礼の言葉に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。
なお、４月に入りましたら、総合計画の方の策定作業を、さらに加速をさせて行かなければなりません。遅くても９月定例審議会、もしくは 12 月定例審議会には、諮る工程表になっておりますので、委員の皆さまにも総合計画の策定、そして、それに関わる様々な業務にあたりましても、ご理解いただきますようにお願いを申し上げます。よろしくお願いいたします。

９　開会

〇菊池文正　経営企画部長

以上をもちまして、平成 26 年度第３回遠野市総合計画審議会を閉じさせていただきます。本日は、大変ありがとうございました。